

# F1日本GPを次世代に 国の成長戦略に位置付けへ

## 《世界に広がるF1と、日本GPの将来》

10月13日、アフリカのルワンダで2030年代初頭からF1を開催する10年契約が発表されました。欧州を中心に開催してきたF1は、米国、アジア、中東へと市場を広げ、世界的な人気を集めています。元F1ドライバーとして、この広がりを嬉しく思います。

一方で、考えなければならぬのが日本GPの将来です。

今回の契約が直接日本GPの開催に影響するわけではありません。しかし、年間の開催枠が限られるなか、各国の誘致競争は激しくなり、開催権料も上昇しています。

F1の運営会社によれば、開催契約には物価連動や年率最大5%の増額条項が設けられるのが一般的。観客が増えても、費用の上昇によって開催の継続が難しくなる可能性があります。

### 《海外に学ぶ、公的支援のあり方》

「わずか3日間の大会に、なぜ公的支援が必要なのか」という疑問もあるでしょう。海外の事例を交えながら解説します。

・シンガポール政府は、F1の承認開催費用の60%を支援しています。大会を観光だけでなく、国際会議や商談と結びつけ、国全体の経済的利益を生み出しています。

・オーストラリアは、ビクトリア州政府が観光客の誘致や地域経済の活

性化、国際的な知名度の向上を目的に、公的法人を通じてF1開催を支援しています。州議会予算局は、州政府の拠出がなければ開催と契約の履行が困難になる可能性が高いと分析しています。

重要なのは、開催日数ではなく、その機会を通じて国や地域にどのような価値を生み出すかです。

ただし、公費を投じれば成功するわけではありません。過去フランスGPでは、多額の公的負担に対し、十分な経済効果が確認できなかったことなどが指摘されています。

### 《日本GPを、国の成長につなげる》

F1は、世界最高峰のスポーツツーリズムの一つです。今年、鈴鹿で行われた日本GPには、3日間で延べ31万5,000人が来場し、うち海外からの観客は延べ10万5,000人に上りました。

世界中から観客が集まり、観光や宿泊、飲食にとどまらず、国際的なビジネス交流や都市のブランド価値向上にもつながります。日本GPは、こうした価値を毎年生み出すことができる、我が国の貴重な国際的資産です。

だからこそ、単なる自動車レースではなく、観光、産業、地域経済を成長させる機会として位置づけるべきだと考えます。

例えば、観戦をきっかけに開催地から周辺地域へと周遊を広げる。日

本のものでづくりを紹介する産業観光や企業間の商談につなげる。子どもたちが科学技術に触れ、世界への挑戦を夢見る機会をつくる。

3日間の大会を、その後の交流や経済活動、次世代の人材育成へとつなげることが重要です。

### 《2029年を見据え、支援の仕組みを》

現在の日本GPの開催契約は2029年までです。その先も日本でF1を開催し続けるため、今から準備を進める必要があります。

スポーツ庁や観光庁を中心に、主催者、自治体、企業が連携し、海外誘客や交通環境の整備、広域観光を一体的に進める体制をつくるべきです。

開催権料への公的支援も選択肢の一つです。ただし、公費を投じる以上、支援の必要性や規模を慎重に判断し、観光消費や雇用、税収への効果を客観的に検証することが不可欠です。

目指すのは、単なる大会の赤字補填ではありません。

日本が長年にわたり築いてきた国際的な資産を守り、その価値を日本全体の成長につなげることです。

F1日本GPを、次の世代へ。国として支える仕組みづくりを進めていきます。

衆議院議員

山本左近



H.P. YouTube Twitter Facebook Instagram



やまもと・さとしん

愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。44歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙(比例代表)に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙(東海ブロック比例代表)に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙にて落選。2026年第51回衆議院議員総選挙にて2期目の当選。英語スペイン語を話すマルチリンガル。



# F1日本GPを次世代へ 国の成長戦略に 世界に広がるF1と、日本GPの価値を数字で見る

NEW

2030年代初頭：  
ルワンダで10年契約

モータースポーツの力で、  
もっと豊かな未来を。

FASTER PEOPLE  
BRIGHTER TOMORROW



JAPAN  
TO A BRIGHTER FUTURE

PEOPLE  
TECHNOLOGY  
REGIONS  
A STRONGER JAPAN

## 1 20年前と現在の比較

F1の舞台は、世界へ。



開催数

18戦 → 24戦



開催国数 (国ベース)

17か国 → 21か国



米国開催数

1戦 → 3戦



中東開催数

1戦 → 4戦

※2026年は24戦だが、米国3戦・スペイン2戦のため、開催国数は21か国。

## 2 2006年の開催地 (18戦)

|    |               |
|----|---------------|
| 1  | バーレーン         |
| 2  | マレーシア         |
| 3  | オーストラリア       |
| 4  | サンマリノ         |
| 5  | ヨーロッパGP (ドイツ) |
| 6  | スペイン          |
| 7  | モナコ           |
| 8  | イギリス          |
| 9  | カナダ           |
| 10 | アメリカ          |
| 11 | フランス          |
| 12 | ドイツ           |
| 13 | ハンガリー         |
| 14 | トルコ           |
| 15 | イタリア          |
| 16 | 中国            |
| 17 | 日本            |
| 18 | ブラジル          |

## 2026年の開催地 (24戦)

|    |              |    |               |
|----|--------------|----|---------------|
| 1  | オーストラリア      | 13 | ハンガリー         |
| 2  | 中国           | 14 | オランダ          |
| 3  | 日本           | 15 | イタリア          |
| 4  | バーレーン        | 16 | スペイン (マドリッド)  |
| 5  | サウジアラビア      | 17 | アゼルバイジャン      |
| 6  | アメリカ (マイアミ)  | 18 | シンガポール        |
| 7  | カナダ          | 19 | アメリカ (オースティン) |
| 8  | モナコ          | 20 | メキシコ          |
| 9  | スペイン (バルセロナ) | 21 | ブラジル          |
| 10 | オーストリア       | 22 | アメリカ (ラスベガス)  |
| 11 | イギリス         | 23 | カタール          |
| 12 | ベルギー         | 24 | アブダビ          |

### 注目ポイント:

- 2006年は18戦、2026年は24戦・アメリカは1戦から3戦へ拡大
- 中東はバーレーン1戦から4戦へ拡大

## 3 開催契約・費用のポイント

- F1公式開示:**  
開催契約は通常3~7年。  
更新契約では「物価連動」または  
「年率最大5%の増額条項」が一般的。
- 公表例:**  
シンガポールGPの年間開催費用は  
1.35~1.40億US\$。  
政府が承認費用の60%を負担。
- 日本GPは2029年まで契約済み。**

※個別の開催権利そのものは非公表が多いため、  
公式に確認できる開催費用・支援額を掲載。

A BIGGER F1  
A BRIGHTER  
TOMORROW

## 4 F1の世界的規模 (2025年・公式開示)

|                |            |
|----------------|------------|
| 総売上            | 38.73億US\$ |
| 基幹売上           | 30.86億US\$ |
| Adjusted OIBDA | 9.46億US\$  |
| 営業利益           | 6.32億US\$  |
| グローバルファン       | 8.27億人     |
| SNSフォロワー       | 1.145億人    |

24戦開催/F1のグローバルファン  
ベースは拡大を続けている。

## 5 鈴鹿の集客力とインバウンド



### 主なポイント

- 春開催と世界的人気で、鈴鹿の集客は再拡大
- 海外来場者は2025年に3割、2026年は10.5万人規模へ
- 日本GPは観光・地域経済への波及効果が大きい

※2006年は鈴鹿公式レポートの決勝日來場者数 ※2026年來場者数はF1公式「前年比+18%」を基に算出

F1日本GPは、3日間のイベントではなく、観光・産業・人材育成につながる『国家資産』。

出典: Formula1.com、鈴鹿サーキット、Honda Mobilityland Sustainability and Economy Report 2025、Liberty Media 2025 Form 10-K ほか

DRIVE A BETTER TOMORROW



国会の合間を縫って、駅頭活動も続けています。学生さんから将来の夢に向かって勉強に励んでいると聞き、嬉しく思いました。また、抱えている悩みも聞かせてくれました。こうした日々の一つ一つの対話を大切にしていきたいです。

各町での秋祭りに参加し、幅広い世代の皆さんと楽しく交流させていただきました。政治の話はもちろん、F1についてもたくさんのご質問をいただきました。関心を寄せていただけることを、とても嬉しく思います。見かけた際は、ぜひお気軽にお声がけください！

## JAPAN as No.1 Again!

日本を再び世界一の国へ

自民党競輪振興議員連盟の会合が開催されました。今年、競輪の競技中に発生した死亡事故を受け、元競輪選手の地方議員団から要望書が手交されました。また、このたび「競輪・オートレース振興議員連盟」として再出発。事務局長を拝命しました。

自動車整備議連総会に出席。深刻な整備士不足やEV・自動運転への対応、損保会社による代理店契約の一方的な解除問題などを議論しました。国土交通省による設備導入支援や制度改正、金融庁との連携による対応も進められています。地域の暮らしと安全を支える整備業界の持続的な発展に向け、引き続き取り組んでまいります。